

## 令和4年度 浜田教育事務所だより

第90号 令和4年9月16日

- ◆学教企画幹より (p.1)
- ◆総務課より (p.4)
- ◆各市町の取組～川本町～ (p.6)
- ◆学教スタッフより (pp.2-3)
- ◆各市町の取組～江津市～ (pp.4-5)

### 初任者研修に係る1回目学校訪問を終えて

学校教育スタッフ 企画幹 山岡 修子

浜田教育事務所学校訪問指導の1つに初任者研修に係る学校訪問指導があります。初任者研修の実施状況の確認と初任者研修対象者の授業力の向上に資することを目的として、年間2回の訪問を行っています。



1回目の訪問として、5月から6月にかけて、学校教育スタッフが浜田管内の初任者研修対象の新規採用教諭配置校と初任者研修対象外の新規採用教諭配置校を訪問させていただきました。ご多用の中、丁寧な準備や対応をしていただきありがとうございました。

この訪問では、40名の新規採用教諭の方々と個々に面談をさせていただいたり、各校の校長先生や教頭先生と情報交換をさせていただいたりしました。1学期は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、集合型の初任者研修が予定通りには実施されなかったり、臨時休業の対応に追われた学校もあつたりしました。そのような中で、新規採用の先生方は緊張や不安を感じながら、教職の第一歩を踏み出されたことと思います。

面談の中で、新規採用の先生方のさまざまな声をお聴きすることができました。一部を紹介します。

- ・初めての担任で、人数も多く戸惑うこともあったが、子どもたちとの関係もできてきて、楽しくなってきた。
- ・子どもたちは担任である自分のことをよく見ている。自分の気持ちが沈んでいると、子どもたちもおとなしく教室の空気が重くなる。気をつけなければならないと思う。
- ・実践研で指導していただいたことを別のクラスで改善してみて、うまくできたときはうれしい。
- ・先日の実践研は全くうまくいかず、かなり落ち込んだ。担当の先生からの的確な指導をいただいたので、これから頑張っていく。
- ・社会科の指導が難しい。見学研で、先輩の先生が児童に対して資料を丁寧に確認しながら進めておられる姿を見て、参考になった。
- ・学年部の先生方のアドバイスやサポートのおかげで、一人で悩むことなく指導が行えている。

- ・学年部の先生がプリントをくださる時に、プリントをどのように活用するか話してくださり、自分も選べるような言葉がけをしてくださることがありがたい。
- ・実家に住んでいて、家族に自分の話を聴いてもらったり、食事や洗濯などを助けてもらったりしていることがありがたい。

この他にもたくさんのお話を聴かせていただきました。ご勤務される学校の環境や子どもたちの様子はそれぞれに異なりますが、新規採用の先生方がそれぞれの場所で、誠実に、そして真摯に職務に向き合っておられる様子をひしひしと感じました。

また、情報交換をさせていただいた校長先生や教頭先生からは、「新卒で初めての勤務だが、付箋に仕事を整理して日々の業務を確実にこなしている」「学ぼうとする意識が高く、分からないことは周りの教員に自ら聞くことができる」「保護者への対応も落ち着いてうまくできている」「いつも笑顔であるが、無理しているのではと心配している」「授業づくりについては、集団をどう動かすかについてさらに経験を積んでほしい」「心身ともに元気に働いてほしい」などのお話を聴かせていただきました。

今回の訪問をとおり、校長先生をはじめ、校内の全職員で新規採用の先生方を支えておられる温かい雰囲気を感じました。周りの先生方のサポートが新規採用の先生方の安心感につながっていることは言うまでもありません。令和4年度の終わりに、それぞれの場所でごんばっていただける新規採用の先生方が、「初任校がこの学校でよかった」と1年を振り返っていただけることを切に願っています。

2学期以降、初任者研修に係る2回目の学校訪問指導を予定しています。そこでは、研究授業と研究協議、管理職や校内指導教員の先生方との面談などがあります。授業づくりについての事前相談等、学校教育スタッフに遠慮なくお声がけいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 学校教育スタッフより

### 総合的な学習の時間ガイドブック（小・中学校編）

学校教育スタッフ 指導主事 森脇雅志

『しまねの学力育成推進プラン』の「第2章 III 地域に関わる学習の充実」に示される、ガイドブックを活用した研修がいよいよ始まります。

第一段として、9月中に「総合的な学習の時間ガイドブック（小・中学校編）」が発行される予定になっております。このガイドブックは、理論編と実践編の2部構成になっています。理論編では、総合的な学習の時間の目標やカリキュラム・マネジメントにおける位置づけについて詳しく紹介しています。実践編では、島根県内の総合的な学習の時間の事例として、5つの学校の取組を紹介し、いずれの学校も、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった探究的な学習過程の充実に向けて、様々な工夫が試みられています。浜田管内からは、美郷町立邑智中学校の、事前打ち合わせシートやICTを活用した外部との連携が紹介されています。是非ご覧ください。



第二段として、ガイドブックの発行後、オンデマンド研修が開始されます。ここでは、ガイドブックの解説を基本としつつ、ガイドブックではお示しできなかった内容も含めて、動画での説明や解説が行われます。動画視聴後は、自校の取組を振り返り、現状や課題、今後の改善点をワークシートに記入して提出することとし、受講者の振り返りの場面も設けています。

小・中・高等学校の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」が各学校へ普及され、児童生徒に確かな学力と地域課題にしっかりと向き合える力を育成するためにも、このガイドブックやオンデマンド研修を活用していただきたいと思っております。

### ちょっと立ち止まって

学校教育スタッフ 指導主事（兼）生徒指導専任主事 沖田 哲也

生徒指導基幹研修のなかで、講師である銀座第一法律事務所の弁護士の戸田啓蔵氏が「昔と今とは教育現場の見られ方が変わっている」という話をされました。以前は「愛・信頼・情熱」といった視点であったが、現在は「権利と義務」という法律の視点で教育現場は見られるようになったということです。戸田氏は「法化現象」であり、学校現場はコンプライアンス意識をもって生徒指導にあたる必要があると話されました。



例えば、校則については「校則だから」という理由で機械的に指導することには問題があり、校則自体が合理的なものかを検証することが必要だそうです。規則を守らせることのみでの指導になっていないか、規則の意義を立ち止まって考えることが必要であるという説明でした。

また、いじめへの対応について「調査」と「指導」とを混同してはいけないという話をされました。「調査」では教員の主観を入れず、事実関係を聴取して背景事情まで十分に確認することが大切で、「指導」については一方的に「加害者扱い」をせず、社会的に相当な方法で行うことが必要であるという説明でした。先入観をもたずに児童生徒の言葉や思いに耳を傾け、背景を把握した上で指導することが望まれているということです。

こう考えてみると「立ち止まって法に照らし合わせながら、事実や背景を把握した上で対応すること」が今の教育現場で求められているのだと思います。

「法化現象」という言葉には冷たい響きを受けますが、実際に私たちが取り組むべきことは「ちょっと立ち止まって、それぞれの立場で見えたものや感じたことを共有し、子どもや保護者に寄り添っていくこと」なのだと思います。そう考えると、求められていることは、人にしかできない温かな営みであるように感じます。

毎日が慌ただしく過ぎてしまうからこそ、意識して立ち止まる時間を作りたいものです。

## 特別支援教育について知りたい！相談したい！そんな時は・・・

学校教育スタッフ 指導主事 大橋 里沙

### 特別支援教育支援専任教員にご相談ください！



#### 特別支援教育支援専任教員って？

特別支援教育支援専任教員は、小中学校の先生方の特別支援教育に関する相談に、迅速に対応し、必要に応じて継続的に支援するという役割を担っています。

#### どんなことが相談できるの？

通常の学級における特別支援教育に関すること、特別支援学級に関すること、通級による指導に関すること、校内体制に関することなどの相談に応じています。

#### どうやって相談すればいいの？

電話1本で相談をお受けします。まずは校内で相談をして、必要があれば特別支援教育支援専任教員に気軽にご連絡ください。

TEL : 0 8 5 5 - 2 9 - 5 7 5 3  
(直通)

#### 特別支援教育について勉強したい！

浜田教育事務所ホームページ内【特別支援教育に関するリンク集】において、特別支援教育に関するホームページを紹介しています。特別支援教育に関する情報、実践事例、教材や支援機器、子どもの見方に関することなど、どの立場の先生方にも参考となる情報が盛りだくさんです。個人の学びや校内研修などにぜひご活用ください。



子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、一緒に考えさせていただきます！

## 子どもを中心につなげるしまねの幼小連携・接続

学校教育スタッフ 指導主事 竹岡 七重



皆さん、この写真を見られたことがありますか。昨年度末に島根県幼児教育センターが作成した幼小連携・接続のパンフレットの表紙です。今年度も各市町で、幼小連携・接続の研修会が積極的に開かれています。パンフレットでは、幼小連携・接続を進めるにあたり、大切なこととして2点挙げています。

#### ①管理職のリーダーシップを発揮する体制の構築

- ・管理職会議の定期的な開催
- ・園内、校内での取組の共有化

#### ②相互の教育についての理解

- ・幼児教育を理解する合同研修会の開催
- ・子どもの交流活動における目的の共有化

子どもを取り巻く大人同士の信頼関係をより深め、一体感をもって子どもを育成しようという意識を高めることが大切です。コロナ禍で、活動には様々な制限があると思いますが、今だからできることを模索しながら、子どもを中心に大人がつながっていき、同じ視点で子どもを見ていくことが大切です。各市町の「育てたい子ども像」をはっきりさせ、接続期のカリキュラム作成に向けて、今後取り組んでいきたいと思っています。また、「幼保小架け橋プログラム」について、文部科学省が手引きを作成しております。この手引きも参考にしながら、幼小連携・接続の取組を進めていきたいと思っています。切れ目のない接続に向けて、幼児教育の視点をもつていただき、特別なことではなく、これまでの取組を整理しながら、持続可能な体制づくりを進めていただければ嬉しいです。

## 総務課スタッフより

### 学校訪問で感じたこと

総務課 企画員 大野 善功

この度、人事交流で浜田教育事務所総務課に赴任いたしました。どうぞ、よろしく申し上げます。

5月から6月にかけて、事務所長訪問に併せて総務課からも学校訪問をさせていただきました。事務職員の皆様には、貴重なお時間をいただきありがとうございます。それぞれの市町での取組や、日々学校で業務改善をして工夫されていること、また、仕事に対しての思いを聴かせていただく中で感じたことがありましたので紹介します。

おそらく、今までは私を含めて、一校一名体制の学校事務職員は、それぞれの学校に配置された職員という個の意識が強かったように思います。しかし、共同学校事務室がスタートして兼務がかけられるようになり、複数人で事務を行い、またチェック体制がとれるようになった現在では、組織として職務を遂行し、より学校経営に参画しているという気持ちの変化があるように感じます。

ご存じのように、浜田管内の共同学校事務室には、様々な体制や業務があり、室長の専決権や、地教委と連携した業務改善の推進、OJTの充実、少人数という利点を活かした室の運営と特性があります。これは、学校教育法第37条第14項に定める事務職員の職務規程が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正されたことによる変化だとも思います。しかし、「従事する」から「つかさどる」に変わったことの本質は、必ずしも業務内容をどう変えるかだけではなく、学校経営を「自分事」の視点で捉えることも大切だと実践をお聴きする中で感じました。その「自分事」の視点は、共同学校事務室という組織ではなくても、今置かれている環境の中で課題を見つけて、行政職としての視点から、様々な支援や裏付けを学校経営に活かしておられるものでした。組織の違いはありますが、共通して言えることはビジョンを明確にして、意識や取組の方向性を共有して進めることができれば、目指すべきところは同じであるということです。

今後も、我々を取り巻く教育課題はますます多様化・複雑化するものと思われまます。これからも、そういった諸課題に皆さんと共に立ち向かっていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

## 各市町の取組から～江津市～

### デジタル社会を生きていく子どもたちのために

江津市教育委員会 派遣指導主事 橋井 泰治

市内全学校に学習者用タブレット端末を用いた授業公開をお願いしています。デジタル教材の有用性を感じる活用場面【国語：文書作成ソフトを用いて作成された友だちの意見文にアドバイスを追記する活動／図画工作：プログラミングによる動きのある作品づくり／道徳：マーク機能による思いの視覚化・共有化 等】が多くみられるようになりました。併せて、学習ドリルソフト、英文音読の録画提出など、家庭学習による利用も積極的に進められています。

また、実践される先生方から「デジタルコンテンツを利用したい。」「タイピング力を身につけるための良いサイトがないだろうか。」等の要望があり、端末起動後のメニュー画面を一新しました。少しでも使いやすくなるように、今後も環境を整えていきたいと考えています。

ある先生の言葉です。「タブレットを子どもたちに使わせてあげないと、きっと将来困ることでしょう。私は決して得意ではないけれど、一緒に学び使っていきます。」子どもたちのために研鑽を続けておられる姿に、強く感銘を受けました。デジタル社会を生き抜く力が求められる子どもたちです。特別な機器としてではなく、学びの文房具として日常利用してもらえることを願っています。



## 経験を生かして

江津市教育委員会 派遣指導主事 岡田 和明

先日受けた研修で、講師の先生が『つなぐ、つなげる』といっても、使う人の立場によって内容やその言葉に込めた思いが違う。」と言われました。そういえば学校で生徒指導を担当していた頃、ある方が「連携とは、戦いだと思っている。」と話されました。連携する関係機関は子どもの支援のために、学校を助けてくれるものと甘く考えていた私は、「戦い」という言葉に衝撃を受けました。



その後、現在の職につき、複数の関係機関が集まって子どもの支援を検討する会で、信頼関係第一と考え発言していた私は、「命と信頼関係とどちらが大切なんだ。」と一喝され、何も言えなくなりました。「子どものため」という方向性は一緒でも、それぞれの立場で優先して考えることは違って、アプローチの仕方も変わってくる」「何が一番良いのか分からない中、意見を出し合い、戦わせ、よりよいと思われる方策を考えていく」こういった場に幾度も参加し、「戦い」という言葉は受け入れられないまでも、言われた方の思いは分かってくるように思います。

指導主事の仕事の一つに、学校と関係機関をつなぐ役割があります。学校内にも特別支援教育や教育相談のコーディネーターが位置づけられ、先生方が直接外部の機関とつながることも多くなりました。私のコーディネーターとしての役割は一区切りかなと思っています。ただ、関係機関と連携する中で、「うまくいかない」「何かすれ違ってるな」などと感じられる時があれば、経験が多い分、役に立てることがあると思います。そういう時には声をかけてください。

## 学力育成について

江津市教育委員会 派遣指導主事 泉 裕子

江津市の学力育成についての取組を2つ紹介します。

1つ目は教員個人への支援を目的としたスキルアップ訪問についてです。これは全教員を対象とし、希望された先生のニーズに合わせて支援を行います。教職経験2～6年目の先生方には、年に数回の授業公開をお願いしています。また、江津市内には、教科担当が校内一人という先生方が、複数おられます（主に中学校）。教科指導について学びたい、質問したいと願う先生方が校内で教科の相談や、授業見学の機会を得にくい状況です。これにアプローチしていくために、スキルアップ訪問での授業公開を今年度は江津市内全教職員に案内しました。早速、1学期に参加があり、少しずつ江津市全体で授業力向上を目指す取組が浸透してきています。



2つ目は外国語科についてです。昨年度に引き続き、先生方に授業で活用いただけるよう、外国語活動1時間ごとの学習指導案等（冊子やワークシート集）を全小中学校へ配付しました。また江津市には英語専科の配置が1名あります。「他の英語専科の先生がどのような授業をしておられるのか知りたい」「困っている部分を具体的に解決していきたい」という専科の先生の話を受け、1学期は配置のある他市へ一緒に出かけ、授業を見学したり、教材や指導法についての情報交換をしたりしました。その結果、教科指導の課題を解決しやすくなりました。また他の専科の先生とつながることにより、いつでも質問や情報交換ができるネットワークを広げることができました。

学校現場の先生方は日々奮闘される中、授業改善等にも挑戦し続けておられます。1歩でも先生方が前に踏み出せるように、一緒に取り組んでいきたいと考えています。

## 各市町の取組から～川本町～

### 共に学び合う授業を目指して

川本町教育委員会 派遣指導主事 市山 剛

川本町では、授業改善の手立てとして、共に学び合う授業を目指して「学び合い」の授業に取り組んでいます。「学びの共同体」で知られる佐藤雅彰先生を講師としてお招きし、年3回、各小中学校で授業公開及び、研修会を実施しています。研修会や佐藤先生とお話をする中で印象に残っていることを紹介します。



#### 【授業改善の三要素】

#### ①活動（一斉、個人作業）

- ・観察する、読み返す、考えをまとめる、確かめる、半具体物による思考等の知的な活動をする。
- ・モノを用いた推論や問題解決的な活動をする。
- ・対象とじっくりかかわり、自分で何らかの考えをもつ活動をする。

#### ②協同（小グループ活動）

- ・多様な考え方をすり合わせることによって、互いの差異を認める。
- ・生徒同士の関わりで、分かった生徒が分からない生徒をケアし、集団のレベルアップに繋げる。
- ・学びの結果をさらに深め、未知の課題に協同して挑戦できる。（背伸びとジャンプのある課題）

#### ③表現の共有（一斉）

- ・他者の意見を聴き、自分なりの考えを創る。発表する生徒の考えと自分の考えの差異を確かめる。
- ・他者と関わる中で、自分の考えを吟味し、反省したり、考えを補強したり、広げたりする。

今後も各学校と連携をとり、子どもたちのために先生方を精一杯サポートし、一緒に考え、取り組んでいきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

### それぞれの新たな挑戦！

川本町教育委員会 派遣社会教育主事 竹田 進吾

「今度は、私たちが企画してもいいですか。」放課後、あそラボに来ている中学生の一言でした。3年前、小学生を対象に行ったベンチャーキッズスクール事業で、町内にある温泉のオリジナル商品開発に挑戦した子どもたち。当時、小学5・6年生だった子どもたちと一緒に、土日を利用して、事前の下調べ、県内の温泉街への視察、街ゆく人へのインタビュー、商品の企画、製作、販売、振り返りなどを行ったことを思い出しました。



これまで川本町では、平成29年度から令和元年度までの3年間、ベンチャーキッズスクール事業を実施し、学校での学びを生かし、子どもたちに商品の企画や販売を通して、起業家精神だけでなく、人と関わることの楽しさやコミュニケーション能力の育成を図る取組を行ってきました。

昨年度までの2年間、コロナ禍でベンチャーキッズスクール事業は実施していませんでした。しかし、中学生との対話を通して、今年度3年振りに本事業を新たな取組として挑戦することにしました。話をしていると、「あの時の楽しさが忘れられません。」「私たちが経験したことを今の小学生にも味わってほしいです。」など様々な思いがたくさん出てきました。実体験を通じた学びの大切さを改めて感じた瞬間でもありました。

3年の時を経て、自分たちが事業の構築に携わりたいという思いが生まれ、それを実践していくために友達や高校生、周りの人々をどんどん巻き込みながら、自ら価値を生み出すことや新たなことに挑戦する楽しさを創り出そうとする動きが見られるようになり、とても嬉しくなりました。こうした中で、ゆくゆくは世代を超えた多様な人々の交流が広がり、活力ある地域づくりにつながっていくと思っています。

これまでになかった新たな挑戦。この挑戦は、子どもたちだけではなく、私たち大人の挑戦でもあります。子どもたちの「やってみたい」を後押しできる伴走者としての関わりが大きく求められているようにも思います。今後も地域の中で人と人との関わりを大切にしながら、小さな実践を積み上げていくことで、子どもたちの確かな学びにつなげていきたいと思っております。